

マップスキル通信第10号をお届けします。“実践マップスキル講座”は平成27年の第24回が仙台市、平成28年の第25回はさいたま市で開催されました。ここに参加された先生のご感想を掲載いたします。平成29年度“マップスキル講座”参加希望の皆様の参考になれば幸いです（敬称略）。

### 第24回教師のための「実践マップスキル講座 ～防災と地図活用～仙台大会に参加して

十和田市立大深内中学校 月足 啓尚

中学校学習指導要領社会科には「（内容の取扱いについて）地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用すること。」との一節がある。しかし日々の授業では教科書の内容そのものに時間がかかりすぎ、地図の読図などについては最低限のことしかやれていないと感じていた。

そんな時、先輩教師から「マップスキル講座に参加したら地球儀でキャッチボールして、陸地と海洋の比率を体感させる方法をやっていたよ」と教えられた。目からウロコだった。その研究会についてもっと知りたい、地図の読み取り方、読み取らせ方を学んでみたい。きっとこの気持ちは生徒にも伝わるはずだと考え、参加することにしました。

初めのアクティビティは大西先生の「新旧地形図の比較を通じた身近な地域の理解」であった。先生から新旧二つの地図を渡され、土地利用によって6色に塗り分けを行った。ひさびさの色鉛筆について童心に帰り、いきいきと作業に取り組み、その時点で地図に引き込まれている自分に気付いた。作業を終えると、面白いようにその地域の特徴が浮かび上がってきて、また比較をすると、それを活かして人間の営みが行われていることも読み取ることができた。

さらに大西先生の講演では、富山大学の学生が参加して行ったまち歩きワークショップの取り組みの一つ、「のらもじ発見プロジェクト」が興味深かった。身近な地域を考えることで、より広いスケールでまちを多様にとらえることのできる柔軟な思考が促進されるということが分かった。

田部先生のアクティビティは「音楽科における地

図の活用」から始まった。他教科(特に音楽)での地図帳の活用は、私の経験や発想になく、驚きだった。また次に行ったドットマップ作り。私も今回と同じ「なぜアジアでは人口が急増し、民族、文化が多様なのか」という問いに対する授業においてシールを用いたことはあった。しかしシールが大きすぎてうまくいかなかった思い出がある。統計資料から作図する技能を高める学習は、扱う題材を考えるだけでなく、その資料によって単位を調整する工夫が必要であるということも学んだ。

岩本先生は「身のまわりで『身近な地域』の学習題材を探してみよう」ということで、実際に仙台の街に出て、会場付近から学習題材を発見する活動を行った。私たちは急ぎ歩く人たちをよそに、キョロキョロとまちを見渡し、題材となるものを探した。見知らぬまちであれだけ楽しかったのだから、きっと身近な地域はもっと楽しく、それでいて新たな発見がたくさんあるのだろうと思えた。そして、学習題材選択の視点には「固定しているか、変化するものか」、「数えられるものか、数えられないものか」などがあり、また地図化のパターンとして「ライン法」や「エリア法」などがあるということも学んだ。

今回参加させていただき、大変勉強になった。これで得たものを自分だけのものとはせず、生徒に伝えていくことで、今後は地図を楽しめるような授業を行っていきたい。また地図活用の仕方をさらに研究していきたい。

## マップスキル研修会（埼玉）で学んだこと

越谷市立宮本小学校 中山正則

### 1 はじめに

次期学習指導要領から、グローバル化に対応して小3から英語、社会科、理科、総合、体育における保健（食育や防災を含む）、プログラミング教育など現代的な課題に対応した教科が始まる。グローバル化への横断的な学習を可能とする教科書として地図帳が、小学校3年生から配布される。このような時期に、本研修会が地元埼玉県での開催となり参加した。

### 2 研修で学んだこと（小学校での教鞭経験のある先生方だからこそ、学べるのが満載）

①田部先生からは、受講生が小学生になった気持ちで、統計資料を地図上にドットマップ化する作業を学んだ。日常、資料活用をさせることは多いが、統計資料から図式化する作業をすることはほとんどないので、新鮮な気持ちでドット棒を用いて作業していった。作業中の受講生のつぶやきを大切にしながら、個別指導される姿が素晴らしいと感じた。

②大西先生からは、さいたま市の土地利用の色塗り地図作業を通して、地域の特色に気付かせることを学んだ。これは、新たな赴任校では必需の作業である。地図作業をもとに、現地に出向き、より一層地域の特色への理解を深める。地図指導の基本を大切にしたい研修であった。後半は、富山県の事例をもとに災害時における家族の具体的な避難をハザードマップから体験的に感じ取らせてくれた。川を隔てて、子供と親がいる場合にどのように避難するかなどは、大水害経験のある埼玉県東部での保護者会等で実施していく必要性を強く感じた。

③寺本先生からは、世界遺産や近代化遺産など観光資源の教材化、特に地元の先生方に観光教育の大切さに気付かせ、それが町おこしや人材育成につながる大切な要素を含んでいることを学んだ。より良い実践を地元の先生に納得していただきながら広めていくための工夫は何かということ、自分自身考えていかなくてはと感じた。

④岩本先生からは、大学生が作られた地域調査の結果を図化した作品をもとに、子供の作品作りへの言葉かけや個別指導、作品を相互評価させる時の視点、そして作品をもとにした探究活動の評価など

について学んだ。どの作品にも、各自のオリジナルがあり、地域調査の目の付け所を感じ取ることができた。後半は、研修会場近くの鐘塚公園に出向いて、フィールドワークをするときの目の付け所、そこから分かる事実、事実を組み合わせることで推測できること、それが地域の特色として表れてくることを学んだ。

⑤次山先生からは、ある問題文をもとに、地域を想像し、そこにおける課題を発見し、地域への理解を深めていくことの大切さを学んだ。描図、読図を子どもに分かるような形で課題提示する大切さを学んだ。実際、受講生も真剣に地図を思い浮かべながら、作業していた。小学校中学年の子供にも身に付けさせたいと感じる内容が数多く盛り込まれていた。教材提示のうまさなど、私自身さらに学ばなくてはと強く感じた研修であった。

### 3 まとめ

現在、海に囲まれた島国である日本では、領土、領海などが国際問題に上がることが多い。

海洋や海運に携わる学習に関する教育が弱いという指摘もある。また、防災教育の必要性は言われているが、大西先生のような具体的な指導は行われていない。今後、地図作業を通して地域理解、国土理解をさせていく必要性は増大するであろう。その時に向けて、さらに研修に励んでいきたいと強く感じる教員は多い。指導者の先生方、ありがとうございました。



横浜大会では男女とも幅広い年齢の先生方にご参加いただいた。